

軽米町百人委員会第3回しごと・観光部会議事録

○開催日時：平成29年11月29日（水） 18時30分～20時00分

○開催場所：軽米町役場2階会議室

○出席者 委員：21名中9名出席

事務局：産業振興課 高田課長 小林担当主幹 松山担当主幹 畑中課長補佐

再生可能エネルギー推進室 平室長

税務会計課 小笠原課長

総務課 菅原主事

○開会

(産業振興課長) 皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。時間になりましたので、百人委員会のしごと・観光部会を始めさせていただきたいと思います。始めに、部会長さんからご挨拶をお願い致します。

(部会長) お寒い中、またお疲れのところ大変ご苦労様でございます。今回3回目ということで、内容も多少突っ込んでいける話し合いにできればと思っていますので、よろしくお願い致します。

(産業振興課長) それではこれから協議に入っていくわけですが、第2回の議事録はご案内と一緒に送付させていただきました。お手元の資料の2枚目をご覧ください。「軽米町百人委員会で出された意見等」ということで、ここには当部会からの意見も入っていますけれども、大きな項目としましては「交流駅に必要なスペース等」「事業規模・配置・構造・設備等」「運営方針・その他」ということで、それぞれの部会の方から出された意見等を載せてございます。ここでは詳しい説明は省略しますので、後でご覧ください。多くの意見が出されておりますが、やれるものとやれないものがございますので、今後これらの意見を基にしながら建設検討委員会の方で図っていくということになります。次に、12月19日の辺りに全体会ということで、今年度の第4回の百人委員会が予定されているという案内が総務課の方からありました。いずれ皆様方にはご案内が行くと思いますので、対応の方よろしく願いしたいと思います。それでは早速ですが、協議の方は部会長さんの方から進行の方をよろしくお願い致します。

(部会長) それでは早速でありますけれども、議事に入ります。かるまい交流駅について、事務局からこれまでの経過について説明をお願いします。

(産業振興課担当主幹) これまでの経過を簡単にご説明いたします。10月23日の第2回しごと・観光部会で皆様にご説明した後の主なものをご説明します。11月8日の臨時議会で10月23日に皆様方にご説明した資料により、議員の皆様方にも特別委員会の方でご説明しております。その後、11月16日に建設予定地の隣接者の方を対象とした説明会を開催して

おります。この時も、議会と10月23日第2回の百人委員会でご説明した資料と同じものでご説明させていただいております。隣接者説明会の中で出された意見の主なものとしたしまして、建物は災害に強い施設を建設・検討してほしいということ、大町方面への歩行者用のアクセス道路の確保を検討してほしい。現在、沢通りの方から雪谷川まで通っている水路が大雨の際に氾濫する恐れがあるため、その水路の改修等に関しても検討してほしい。図書館の蔵書数を増やしてもっと充実した図書館にしてほしい。それから、町の活性化につながる施策・開催するイベント等を交流駅が多く活用されるように検討してもらいたい。元屋町方面への既設の町道について、大型車両が通り抜けできるように整備を検討してもらいたいというような意見が出されております。これまでの内容でございますけれども、昨年議会の議決をいただいて、建物を建てる部分の用地を取得しております。11月8日の臨時議会では、駐車場と県道までの二車線道路を整備する部分の用地の取得について議決をいただいて、今年度中に所有権の移転をするために手続きを行っております。今後については、12月22日金曜日午後6時半からと12月24日日曜日午後1時半から、住民の方全員を対象とした住民説明会を開催する予定となっております。事務局からの説明は以上でございます。

(部会長) ありがとうございます。それでは交流駅について、皆さんの方から何かご意見等ございますか。

(委員) 巷の方では、今なんでこれを建てるのか、いや建てればいいんだというような様々な意見が出ています。そして、公民館や図書館は今じゃないと建てられないのかという話も出ていますが、本当に今じゃないと建てられないのですか。

(産業振興課担当主幹) 今じゃないと建てられないということはないと思います。ただ、公共の建物については耐震補強をなささいよという国の指導がございますけれども、町立図書館や公民館は耐震補強できるような建物ではございません。それ以上に古く、老朽化しておりますので、第一の目的は安心して利用できる公民館、図書館の更新施設が必要だろうということでございます。

(委員) 今までに2回、隣接者への説明会がありました。たくさん問題点が出てきましたが、一番の問題は、当初交流駅は商売に関わるような施設になるということでしたが、いつの間にか公民館に変わってしまったということ。個々の問題もありますが、地域の問題もあります。水害に対しては2年に1度水が上がるという、そこに住んでいる方の証言がありましたし、この設計では廃業するしかないなという意思を持った方もいます。雪はどこに投げたらいいのか。そうゆう問題も実際にはあります。議員さんや検討委員会の皆さんは、誰一人として地域の問題というものを見繕うことをせずにこの物事が進んできました。公民館も老朽化しているので、建物の構造に対しての賛成意見はありますが、建設する場所に関してはもっとよく検討してほしい。もう少し住民の声に対して耳を傾けるようなやり方をしてほしい。そして今そこに隣接する人たちの生活が今以上に悪化しないように、問題点を皆さんで解決してほしいなど、そう思っております。

(委員) 前回の部会の説明でスタートが1年ほど延びるということでしたが、1年延びることによって特別に費用が発生するということはないのですか。

(産業振興課担当主幹) 1年延びたことによって費用が高くなるということはございません。ただ、今年全ての設計を終わらせて、平成30年度には着工したいというのが当初の目標でしたが、この1年の間に火葬場と特別養護老人ホームの建設の計画が予定されてきたということと、1年で詳細設計まで決めてしまうのは早すぎるのではないかという意見も議会の中でございました。今後、火葬場と特別養護老人ホームを建設するための費用がかかってきますので、財政が厳しくなるということは当然のことです。また、当初の計画では今年度中に基本設計と詳細設計まで行う予定でしたが、今年度は皆さんから様々な意見を出していただいて基本設計を作成し、建物の詳細設計については来年1年をかけて検討していくという計画であります。ある程度内容が決まった時点で、住民の皆様方に説明会等で説明しながら、修正を加えつつ1年間設計の期間を延ばして計画を立てるということです。ただ、今年度予定したものは変更契約でその分減りますので、今年度減らした経費が来年度の詳細設計分になるということで、経費面では変わりはありません。

(委員) 火葬場やいちい荘の建設は必要だという話は以前からあったわけですね。交流駅の話が大きくなった途端、急にまた前に出てきた感じがするのですが、優先度はどうなんですか。

(産業振興課担当主幹) 建物は先行して火葬場と特別養護老人ホームが先に着工になると思います。

(委員) よその市町村では、例えば文化会館を建ててしまうと財政が大変だという話を聞きます。その大変だというのは、私たちの税金が上がるために大変だということになるのでしょうか。具体的に固定資産税が上がるのか、町税が上がるのか、私たちの生活に直接響くような大変さになるんですか。

(産業振興課担当主幹) それは法律で決められてあることなので、ないですね。

(委員) 町の予算が大変になるということですか。

(産業振興課担当主幹) 建物を新しくすれば今の施設よりも多少面積が増えますので、若干維持費がかかるかもしれませんが、それは役場の財源の中で減らす部分を減らして、そちらに持っていくという話になると思います。

(産業振興課長) いずれ役場も財布は1つですから、その1つの財布の中でどれを優先的にやるのか、さらに有利な制度等があればそれを活用しながらやっていきたいということです。多くの施設が老朽化していますので、施設の更新は計画的にやらなければいけないのですが、町民の皆様や議会で火葬場・いちい荘はどうするんだということを強く言われまして、最終的には町長の判断になると思いますけれども、どれを先にやるか決めるということになると思います。例えばこれが10年位の計画で3年ずつ進めていくとなると、ある程度一定のお金で対応できることとなりますけれども、一度に計画するとなると、どのようにしてその限られた財源を有効に活用するかということを検討しなければならないので、厳しいという考え方です。

(産業振興課担当主幹) 1年ほど延ばすというのは、財政状況をひっ迫させないために役場として過疎債を有効に活用していきたいと考えております。火葬場や特別養護老人ホーム

などについては、事業費の9割が対象になって7割が交付税で戻ってくるため、約3割ちょっと出せばいいという起債を有効に活用していけば、町の財源がそれほど厳しくなっていない。それを有効に使うためには、この3つのうちのどれかの施設を若干先延ばしして、年度が集中しないようにしてやらなければならないということで、若干延びるという話になっているわけでございます。

(委員) 商業施設は起債の対象にはならないのですか。

(産業振興課担当主幹) 商業施設は対象にはならないです。

(委員) 質問の趣旨がちょっとずれるかもしれませんが、当初かるまい交流駅の建設にあたって、ふるさと納税を活用していきたいという話が出ましたけれども、他の市町村からだけではなく、地元の方からもふるさと納税をできるような魅力的な返礼品があればいいと思います。税金も安くなるし財政の補助にもなるので、それを活用していけるように、積極的に役場の方としても働きかけが必要かなと思います。今のところ、ふるさと納税からの資金は交流駅に使えるということではないんですよね？例えばこれに使いたいという趣旨のものを発信しても、いちい荘だったり別なものにいくというように、軽米町のふるさと納税の使い方は町長の判断で決まっているということだと思いますので。どうにか今の交流駅にふるさと納税を大いに活用できるような発信の仕方というのはないでしょうか。

(産業振興課担当主幹) 一般の方のふるさと納税は使途目的がないわけですがけれども、この事業については企業版のふるさと納税を28年度から30年度までの予定で実施していただいております。年間3400万円、合計1億200万円が交流駅の建設に使われる予定で、28年度もすでに買収済みの土地の一部として3400万円が入っています。今年度も土地を買いますけれども、それだけでは3400万円までいきませんので、その3400万円は用地代や委託業務費として使われる予定であります。来年30年度は、1年先延ばしされる詳細設計が5000万ちょっとかかると思いますので、うち3400万円がふるさと納税で賄われるという予定になっております。

(委員) 前回は再生可能エネルギーのお話がありましたが、交流駅で想定している再生可能エネルギーというのは、具体的にどのようなものですか。

(産業振興課担当主幹) 現在の概算事業費を算定する単価的な部分は、ボイラーや電源に再生可能エネルギーを活用できるような平米あたりの単価を採用して、予算は約23億5000万円になりますということを皆様方に説明をしておりますけれども、細かい内容については来年度の詳細設計の際に検討することになります。太陽光パネルであったり地中熱設備であったり、いずれ有効に使える補助事業を検討したうえで、一番有効的な再生可能エネルギーを活用したいという考えはあります。何を使うのかというところまでは、詳細設計の中で検討して決めていくことになります。

(委員) その再生可能エネルギーを使うことによって、ランニングコストがどれくらいかかるかが重要。初期投資の部分については補助事業が対象になるというのがベストなやり方だと思いますので、初期投資は多少かかるとしても、再生可能エネルギーについては本気になって検討していただきたいなど。軽米町はいろいろなことで産業の活性化を進めてい

ますが、全国的にも一番注目されているのはこの再生可能エネルギーだと思います。そういったものを全国に向けて発信していくことが、軽米町をアピールするひとつのポイントであると思いますので、より意識をもって進めていただきたいと思います。

(産業振興課担当主幹) 軽米小学校を建設する際も大きな事業者を呼んで、地中熱設備、暖房設備を入れてありますし、35kwの太陽光パネルも設置して、残った電力は売電までしています。役場も地中熱設備と太陽光パネルを設置しましたので、当然そのような形で再エネを活用した施設を建設、検討していきたいと考えております。

(部会長) その他、どなたかございませんか。なければこれは意見としてとっておくということでもよろしいでしょうか。

(部会長) それでは協議の2番としまして、地域資源を生かした産業の活性化ということで、皆さんからご意見をお伺いしたいと思います。順番に皆さんに聞いてみたいと思いますので、先に私からお話します。前回も言いましたけれども、今山内地区ではソーラーパネルを設置し始めているということで、車も前の10倍くらい走っているんじゃないかなと思うほど、交通量が多くなっています。そうゆう面でも、働いている人はどこで食事をしたり泊まって暮らしているんだろうかと思う。町内で全部それを賄えればなと思って考えていたんですけれども、現況どうなんでしょうか。

(再生可能エネルギー推進室長) 今先行しているのが、山内のレノバの西ソーラー東ソーラーですけれども、まず宿泊の方について、西ソーラーの方は町内の宿泊施設それからアパート、あとは民間の空き家を活用して、人数的に30~40人泊まっていちゃいます。ただ、軽米で空いているアパートとか空き家を探しているんですけれども、現在のところは八戸とか二戸の方に泊まっているということです。これから小軽米のスカイソーラーの方が始まりますので、またどこか学校の校舎空いているところに宿泊施設を建ててもらえるように検討したいと。いずれ最初は学校施設の方を宿泊施設として使いたかったのですが、改修や消防の関係がありまして、今は事務所に活用しようということでやっております。食料品や資材、事務用品などは町内の業者さんを使いましょうということでございます。

(部会長) これからもできるだけ町内で抑えていって、ここで稼がないとと思っていました。次の方から順番にご意見をお願いします。

(委員) テーマが大きすぎて何をお話すればいいのかわからない。

(産業振興課長) この前の議題の時に皆さんから自由な意見が出たんですけれども、その中から少しお話しすると、若い人たちが料理コンテスト、シリアルサミットに参加することはよいことだということ。それから、昔の料理の講習があればよい。これは地域の食材を使ったものという意味で捉えてもらってよろしいんじゃないかなと思います。それと、昨年のイルミネーション、ハイキュー！！フォトロケーションの規模はよかったと。若い人たちが集まる催し物をこれからも広げてほしい。いずれ人が集まってくればそれなりに消費することがでてくる、という考え方だと思います。交流人口を増やすには、都会から人を呼ぶことが必要だということ。農産物や加工品を町外に売る長期的な計画を、目標を立てて実施してほしいという話が出ました。それから、東京都内にアンテナショップを作っ

たらどうかという意見も出ました。それから、ソーラーができれば雇用は生まれるよということ。FM岩手で軽米町を宣伝していますけれども、宣伝力は大きな効果があるということ。それと、町外から町の人たちと違う感覚を持った人たちの応援隊が必要じゃないかと。要するに、町の人たちではなく他の人たちの視点から見た町の活性化のやり方が必要じゃないかということです。それから、ヒメボタルがいいのでうまく活用してはどうかという意見も出ました。それから、軽米の良さを発信するコーディネーターが必要ではないか。それから、軽米に宿泊施設が少ないということ。軽米の特産品を軽米の町で食べようとしたときに、気軽に食べれるところがない。イベントを行っているが、そのイベントの宣伝力が足りない。大まかにこういった意見が出ました。テーマが多岐にわたっており絞りにくいのですが、いずれ地域資源を生かした産業ということで考えれば、農業と観光を使った活性化、人を呼ぶことによって町の産業の活性化が始まるんだという考え方で話してできればいいのかなと思っています。

(委員) わかりました。農業に関したことで、今年うちに東京からある会社の社員の方々が30人ほどいらっしゃいまして、白あずきを畑に植えるという作業をしていただきました。特にうちで求めたのではなく、その会社が自分たちで仕事をするうえで、農業ってゆうのはこうゆうところから始まっているんだよというのを、社員らに体験をさせたいということで見えられました。社長さんも含めて30人くらいの方々が、マルチを張ってその穴の開いているところに白あずきを手で植えていくんですけども、とても真剣にやって帰ってくださいました。当初はどのようにして受け入れたらいいのかなと非常に考えましたが、特に何もしないで、ここに畑があるよ、ここに種があるよ、これを植えていってくださいと単純にそんな言葉をかけてあげました。長靴も来る前に30足くらい送ってよこして、それを皆さんに渡して。交流駅にバスロータリーができて、高速バスも来て停まってもらえるのであれば、夜の10時頃に東京を出てくれば朝の6時頃には着くんですけども、今うちで体験したようなことが年に何回でもできそうだなと。私たちにとって普通の作業が、都会の方々にしてみればすごいことやったなって思って帰っていただけるんだなって、逆に体験をしました。だから特別に構えないで、皆さんどうぞいらして農業体験お願いしますというふうな形での呼びかけってゆうのは、絶対にできるなと思います。

(委員) 今のお話を聞いてみて、大切ないいことだと思います。無いものを話しても、これから造るとなると何年計画がかかるか、費用だってそうだし、今あるものを活用することを再検討した方が有効的だと思います。さっきも再生可能エネルギーの話が出ましたが、今、軽米小学校で再生可能エネルギーを使った施設にして、計画通りの効率になっているかどうかわかりますか。

(産業振興課担当主幹) 概ね計画通りです。あの時はたまたま環境省の100%補助がありました。地中熱設備の井戸約100mを38本掘っているんですけども、その地中の熱を循環させたものを暖めて暖房にしたり、冷やして冷房にしたりするヒートポンプ、これを設置する費用約1億円かかっているのですが、100%補助金が利いたということが軽米小学校さんのほうでは一番のメリットでした。維持管理費を考えても、それによって全ての照明もLED化になっていますので、ランニングコストは概ね予定通りいっていると思います。

(委員) 役場の設備もそうですか。

(産業振興課担当主幹) 役場で作ったソーラーも100%補助です。駐車場に建物を建てて、周りに12本の地中熱と3本の地下水を汲み上げるボーリング管が入っているんですが、それをヒートポンプで暖めたり冷やしたりしています。役場の1階の駐車場にも熱交換する機械が入っているんですが、それらは100%国からの補助金です。ただ、役場の中の配管は40年経って水漏れするように老朽化していましたので、これについては役場で起債を使って対応しています。軽米小学校さんでは、夏の期間は1か月に10~20万円ほど売電ができているようです。

(委員) では自分のところで全部賄っている？

(産業振興課担当主幹) 学校を使っている日は太陽光だけでは足りていません。足りない分は購入電力で賄っています。ただ、夏休みや土日は使用する電力は限られるので、それを足していくと1か月では10万円とか20万円の売電にはなっています。

(委員) ハイキュー！！の関係で町内を訪れる方が、年間約1000人いらっしゃるということを知ったんですね。帰省する方も物産館とかを利用されるというお話を聞いて、多くの観光客や町に働きに来ている方に町内をアピールするチャンスだと思います。町内の案内図を目につくようなところに作るとか、物産館のところに大きな案内板がありますけども、奥まったところであって、なんであそこに作ったのかよく分からない。物産館という名前もよく見ないと上の方についているだけなので、道路沿いから見えてところにも作られてはどうかということを考えました。立派なパンフレットがあるのに、ユニバースや薬王堂、郵便局にも置いてないんですね。企業ですから方針的に置けないということがあるかもしれませんが、町内外の消費者がたくさん利用しているんですから、協力していただけるようお願いしてほしい。お店だけではなく、バス停の近くに置いて自由に触れられるようにしてほしいと思います。また、トイレを利用できる施設のトイレマップのようなものを作ってあげると、親切だしあまりお金をかけなくても済むのではと思います。それから、町内をウォーキングしているとごみが捨てられているのを目にします。拾おうと思っても、どこでどうゆうものに使われたのかを考えると躊躇してしまうし、捨てる場所がないんですね。だから、町中や役場のどこか一角にごみを捨てられる場所を作ってほしい。町の美化運動を計画して町民にも呼び掛けて、定期的に周辺のごみを拾うようなことをしましょうというPRをしたらいいと思います。他の自治体に倣って、申し出があったらごみ袋や手袋などの道具を貸し出したりすれば、ボランティアで月に1回や2回やってもいいかなという方がいらっしゃるのではないかなと思います。

(委員) 私は今回、軽米の特産品について考えてきました。主に食についてですが、まずさるなしに関しては、正直身近な食材ではないかなと。普段手軽に口にすることもないので。若い人は特にそうだと思います。なので、手軽に口にできるような商品を考えてきました。例えばさるなしのサイダーなんかは爽やかで手軽に飲めるかなと思います。あとは、似たようなものでさるなしウォーター。いろはす天然水みたいな感じで、さるなしのウォーターだったり、スパークリングの飲物なんかもいいと思います。先ほどもお話がありました。こうゆう物があれば、ふるさと納税のお礼の品としても出していけるのではと考えました。次にそばに関して、近年の健康食ブームでそばはすごく注目されていると思います。そこで、そば粉を使った料理として、ガレットというフランスの料理があるんですけど

も、どういったものかという、そば粉の生地を薄く焼いて、ベーコンやチーズ、卵をのせて包み焼するという、おしゃれな料理があります。東京でガレットを出すお店に行ったことがあるんですが、すごく大繁盛していて行列のできるお店でした。とても人気があるので、そういったものを作ってみたらどうかなということ。あとはそば粉を使ったクレープやパンケーキなんか若い人は好きですし、結構年配の方も甘いものを食べると思うので、いいんじゃないかなと思います。こういった料理をこの辺で出しているお店はないと思うので、軽米から発信していったら話題になれば人も集まってくるのではと思います。さらに、そのレシピをインスタグラムに載せたり、そういった料理を出すお店が出てきたら食べログなどで評価したり写真を載せてあげるとか。結構食べログ見てここのお店行ってみようって思う人もいると思うので、そういうのを活用すればいいと思います。それから雑穀について、特にアマランサスは最近スーパーフードとして注目されているので、アマランサスを使ったスイーツを作ってみたらどうか。えごまも、美肌効果やダイエット効果があるということで、アマランサスと同様に女性にすごくおすすめできる食材じゃないかなと思います。そういったキーワードになるようなものをどんどん使ってアピールしていけば、インターネットで検索した時に、検索ワードで引っかかってきて、興味を持ってもらえるきっかけになると思います。情報力のある若い人や女性をターゲットに絞って、注目されるようにPRしていけばいいと思います。

(委員) 先ほどおっしゃったようにトイレマップのようなものがあれば、観光客には親切だと思います。軽米町は農業も観光資源になりますし、ホテルも非常にいいと思います。観光案内人として、ただ単に山だけ案内したこともあります。紅葉した山を見て感動して帰られる方もいらっしゃいます。案内人の役割としては、地元をもっと知ることと情報を共有することが必要だと思います。以前ヒメボタルを紹介する機会があり、2週間ほど毎日山に行って調べました。二戸側とは比べものにならないくらいすごい数のホテルがいます。100万匹ってゆうのは嘘ではないなど。そこで観光スポットを何か所か用意して、そこを案内する知識のある案内人をおくべきだと思います。様々な分野に精通した専門家や知識を持った人たちで情報を共有し合って、お互いの苦手分野を補っていく必要があると思う。加工品の販売も、販売者や生産者がどういう過程でこの製品になったのかという説明を積極的に町の人たちに教えていく機会を作ったらいいと思っています。町を積極的にアピールするためには知識と下調べが必要です。それからパークゴルフやグラウンドゴルフも交流人口が多く、年間約1万人以上の利用者がいます。できればハートフルにお茶を飲んだりシャワーができるようなクラブハウスを造ってほしい。そうすれば、もっとその施設を利用する方がでてくるのではないかなと思います。

(委員) 前回と同じようなことを言いますが、例えばさるなしドリンクは今足りていますか。ある業者さんが申し込んだらないって言われたと。

(産業振興課担当主幹) 今年は生産量もありましたし、欠品という話は聞いてないです。

(委員) 目標を決めて毎年何tとやってやっていますか。

(産業振興課担当主幹) 4t～6tです。その年によって増減が出てきます。

(委員) それを特産品にするんだったら、生産量や売り上げの目標を決めてやっていくことが必要だと思います。それから、雑穀は足りていますか。

(委員) 農家の人の事情もあります。毎年種だけは渡して、お願いして作付けはしてもらっています。

(委員) 販売する業者さんにも足りてるかどうかを聞いて、足りてないならば何年計画で売り上げの目標を決めて、宣伝費はどれくらいかけたらいいか、何が必要かを考えていくべき。そのためには売る側と紹介する側が仲良くなって、細やかに相談すること必要だと思う。さっきの農業体験も非常にいいことだと思いますが、それをどこに宣伝するか。雑穀は体にいい。どこに宣伝するのか。そしてお客様に来ていただく。例えばフォリストパークの遊具は危くないか、古くないか、汚くないか。町にごみは落ちていないか。また来たくなるようなところか。ひとつのことをやっていけば全部よくなると思うんです。さっきのヒメボタルも100万匹もいるんじゃないかってことを聞いて驚きました。山陰の方ではカメラマンが1日に200人も300人も集まる場所がある。これは観光資源になりますよ。だからそれをどこに宣伝するのか、みんなで相談しましょう。

(委員) 昔は笹渡地区にもホテルがいたが、軽米でも川を美化することによって増やすことができないかと思ったりもする。折爪のヒメボタルも素晴らしいが、町内で見られるようになれば一番いい。みんなで作る観光もいいと思います。それを対外的に宣伝していくスタッフが必要だと思う。

(委員) 軽米の赤煉瓦も50年が経ちましたので、歴史的建造物の端くれにはなると思います。建築協会とか学会とか、あちこちの人が来ています。そういった建物が20軒以上あります。これも観光資源になると思います。

(委員) たくさんの意見が出ましたが、これをどのようにして活かしていくのか、次の段階に進めるためにどうしていくかを考える必要がある。

(部会長) その他どなたかございますか。なければ本日はこれで終了します。

(産業振興課長) 次回は全体会として12月19日を予定しております。皆様には追ってご連絡致しますので、よろしくお願い致します。本日はありがとうございました。